

2009 SUPER GT 第1戦 岡山

◇◆◇2009、雨の開幕戦・岡山を完勝で制す！◆◆◇

■2009年3月21～22日

■岡山県・岡山国際サーキット

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：3位 / 決勝：1位優勝

◆3月21日 予選

【渾身のアタックで、開幕戦の予選は3番手】

ついにシーズン開幕を迎えたSUPER GT。

世界的な経済危機に直面し、モータースポーツもその影響を受けることになったが、

今シーズンのチームは、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rとして新たな戦いに挑む。

荒のパートナーはコンビを組んで3年目となるJ・P・デ・オリベイラ選手。

スタッフとのコミュニケーションもシーズンを重ねるごとに強化されるなか、今シーズンの活躍に期待がかかる。

オフシーズンの間には、数々のテストに参加。GTAオフィシャルテストが激減するなか、

事前に走行を重ねることで、データ収集に努めてきた。

迎えた開幕戦は、岡山国際サーキットが舞台。

今年からレーススケジュールが一部変更され、金曜の練習走行は廃止に。

代わって、土曜の朝に公式練習、午後から予選が行われることとなった。

公式練習はトータル2時間のうち、GT500クラスに与えられる走行時間は、合計1時間45分。

まずGT300クラスとの混走で1時間30分、その後、専有走行として15分間が設けられている。

風もなく穏やかに晴れた岡山は、陽射しがまぶしいくらい。

その中を、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rに乗り込んだオリベイラ選手がコースへ。

アウトラップを終えて一度ピットに戻り、セッティングの確認を済ませて再度コースへと向かった。

徐々にペースアップしながら周回を重ねたオリベira選手。

ところが、7周目に1コーナーでコースアウト、その勢いでマシンがタイヤバリアに接触した。

左フロントを破損したマシンはその場にスタック。これでセッションは赤旗中断となる。

ピットに戻ったマシンは、すぐさまスタッフによって修復が開始、

GT500クラスの専有走行時間に再びオリベira選手がコースに向かった。

その後、荒がコースイン。予選に向けてのクルマの確認を行うことに専念した。

予選は午後1時15分からスタート。

GT300との混走に30分、その後、GT500専有に10分が設けられた。

このセッションで上位8台が、スーパーラップに出走できる。

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rはセッティング作業に時間をとっていたため、やや遅めのコースインとなったが、専有走行に入ってベストタイムを更新。

アタックを担当したオリベira選手がマークしたタイム、1'25.145は5番手となった。

一方、荒も予選基準タイムをあっさり更新し、スーパーラップへの進出を果たした。

インターバルを使い、さらにマシンのセットアップを済ませ、迎えたスーパーラップ。

オリベira選手は4番目にコースイン、存分にアタックし、1'24.774のタイムで暫定トップに立った。

このあとさらに4台がアタックするも、オリベira選手の刻んだタイムは総合3番手を獲得。

開幕戦のスタートを、セカンドローという好位置からスタートすることに成功した。

◇ドライバーコメント◇

午前中にアクシデントがあったので、僕が走る時間は少なかったですね。

でも、その中でチェックすべきところはキチンと要所要所で行うことができたし、セットアップに対して、いい提案もすることができました。

チームとしては限られた時間の中でも落ち着いて仕事ができるようになってきているものわかるし、

実力がついてきていると思います。チームだけでなく、タイヤ開発でも大きな進歩を感じています。

GT-Rの性能が高いので、セッティングを迷わずに絞り込んでクルマを作ることができています。

レースウィーク中でも色々なチャンスを見つけて、状況を変えることができるよう

になったと

感じていますし、明日はいいポジションからスタートし、いいレースができると思います。

◇監督コメント◇

朝の練習走行でJP（・デ・オリベイラ）が飛び出しましたが、メカニカルトラブルではなかったと

わかり、ホッとしました。この岡山はいい流れの中でレースができるという思いがあったので、

予選で3番手をとることができたのは良かったですね。

明日はみんな天気のことを心配しているようですが、雨でも晴れでもウチのタイヤは大丈夫。

オフの間にじっくりテストをしてきているので、明日もいい戦いができると思います。

◆3月22日 決勝

【雨の中、磐石の走りで開幕戦を制覇！】

決勝日の日曜日はあいにくの雨模様。

午前9時20分からのフリー走行では雨こそ降らなかったが、すでに路面はウェットコンディション。

レインタイヤを装着しての出走となった。

チームはこのセッションで深溝、浅溝のレインタイヤ、さらにスリックタイヤもチェック。

ポジションこそ11番手だったが、決勝レースのシミュレーションに徹し、戦いに向けての準備を順調に進めた。

午後2時にスタートを迎える決勝を前に、雨は降ったり止んだりの不安定な状況。

その中で、No.24 HIS ADVAN GT-Rのスタートドライバーであるオリベイラ選手は、

深溝タイヤを装着し、ダミーグリッドを離れた。

スタート直前に雨脚が強くなったことから、レースはセーフティカーランのまま2周を終了。

3周目から実質レースが始まった。

オープニングラップに逆転のチャンスがあると読んだオリベイラ選手。

次々とパッシングを決め、トップでメインストレートに戻ってくる。

足下が不安定なライバルに比べ、オリベイヤ選手は水を得た魚のように元気な走りを見せる。

そして周回ごとにギャップを築き上げる快走を見せた。

自分のペースで順調に周回を重ねるオリベイヤ選手。

1分以上のギャップができると、あとは後続とのタイム差を見ながらレースをコントロール。

申し分ないパフォーマンスを存分に見せ、51周終了でピットに戻った。

待ち構えたスタッフは31.2秒でピット作業を終了。

クルマに乗り込んだ荒がコースへ向かった。

レース前半、時折激しい雨に見舞われたコースも、後半は次第に雨量が少なくなり、

終盤になると、路面から上がる水しぶきの量も減る傾向へ。

完全レインセッティングだったNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rに対し、後続のNo.18 NSXは雨が少なくなる方向にクルマをセッティングしていたことから、

2台の差が少しずつ縮まることに。

しかしながら、荒は周回遅れに遭遇するGTならではのレース展開を味方にするだけでなく、

巧みにクルマをコントロールし、トップでレースを牽引。

ドライブ中は、無線のトラブルでピットとの交信がまったくできないままの走行を強いられたが、

サインボードを確認しながら、冷静に周回を積み重ね、ファイナルラップへ。

荒はマージンを保ち続けたまま、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rを真っ先にフィニッシュラインへと導き、独走による勝利を達成した。

2007、2008年にはセパンでの戦いで優勝を果たしているチームだが、国内サーキットでの勝利は今回が初めて。

シーズン開幕戦という大舞台で、栄えある勝ち名乗りをあげたといえる。

◇ドライバーコメント◇

今日は最後まで落ち着いて走ることができました。

JPと交代後、無線がうまく動かなくてチームとコミュニケーションが取れなかったことが

一番さみしかったですね。まったくどっちも聞こえなかったので、サインボードだ

け使っていました。

レースでは、JPがたくさんマージンを作ってくれました。最初は、まだ水があって良かったんですが、

レインよりのタイヤを選んだいたので、路面が乾くというか、水が少なくなってくると

ツラかったですね。でもうまくコントロールはできたと思います。

後ろとのマージンを見ながら無理しないように、うまくコントロールできましたね。

今日の勝利は、JPと横浜タイヤとGT-Rのおかげ。もちろん、僕もクルマをガンバって作りました。

◇監督コメント◇

一番価値のある勝利をいただくことができたという気がします。

セパンでの連勝もすばらしいですが、開幕戦で勝てたということ、雨を制することができた、

ということはやはり特別です。「雨のヨコハマ」の復活になったのではないのでしょうか。

今回はコンディションがすごく難しいレースでした。

その中でふたりのドライバーが役割を果たしてくれたし、メカニックも今週末一番のタイヤ交換を

やりました。自分の中では今週末、何かいいことあるような予感がありました。

チームスタッフのみんなが自信をもって仕事をしているのがよくわかります。

昨日スーパーラップでアタックしたタイヤは、雨になってもドライでもいけるものでした。

まあ、“してやったり”のレースでしたね。

荒は、交代直後から無線が最後のほうまで使えなくて、最後の最後につながったんですが、

使えなくても思ったとおりの走りを見せてくれました。国内勝利が今年目標だったので、

冗談で「もう今年は終わり」なんて言いましたが、

フォーミュラを今年休んででもGTに専念したというチームの選択は間違っていなかったと思います。

だからますます頑張りたいですね。

